



～発音の発達について②～

今回は、「音としては発音できるが、特定の単語になると違う音になったり、音が入れ替わったりする場合」についてご紹介します。

例えば、「こ」の音は発音でき、「こま」「ねこ」などは正しく言えるが、「コップ」は「ポップ」になるといったことはありませんか？ 。。。下記①

- ① 前後の子音と同じ音に置き換わる。例：「テレビ」→「テベビ」
- ② 子音の位置が入れ替わる。例：「テレビ」→「テレビレ」
- ③ ある音が抜け落ちる。例：「ゆきだるま」→「ゆきだま」
- ④ 本来ない音が付け足される。例：「ゆきだるま」→「ゆきだるまん」

これらは『音形の誤り』と言われ、文頭にも書きましたが、音自体は発音できるのが特徴です。おおむね、4歳過ぎには見られなくなります。

気になる発音があれば書きとめておいて、その音自体は発音できるのか、特定の単語になると音を誤るのかなどチェックしてみてくださいね。わかりにくい場合は、「ことばの教室」までご相談ください。



～子どもと楽しむ行事～

節分

「節分」とは、その名のとおり季節の分かれ目で、春夏秋冬それぞれにあります。室町時代頃から次第に立春の前日のみをさすようになったそうです。古い話ですね。

豆まきは、中国の鬼払いの風習が伝わったもので、「福はうち、鬼はそと」と病気や災いを払って春を迎える願いが込められています。

鬼には事象、感情など様々な負の部分を背負い込んだ対象としてきた部分がありますが、『泣いた赤鬼』の物語にもあるように鬼＝悪など何事に関しても決めつけない心を育てたいものです。

保育園(所)、幼稚園、こども園など就学前の学びの場では、伝統行事の意味を理解した上で配慮・工夫しながら子ども達に伝えています。

子ども達にとってオニは遊びの中の身近な親しい存在。代表的なのがおにごっこ。鬼の名前をつけた経緯は先述によると思いますが、関係なく役割遊びを楽しんで欲しいと思います。

節分の食べ物

炒った大豆（福豆）を年より一つ多く食べ、穀物に宿る霊により厄払いをする、ひいらぎの枝に焼いたいわしの頭を刺して厄除けにするためにいわしを食べるなど、節分にちなんだ食べ物があります。

今は恵方巻と言われる巻き寿司を食べるのが主流でしょうか。諸説ありますが、大正初めには大阪で食べられていたようです。

まめがら がらがら さくらの しょっこ
またきて くんぐり くるりと まわれ

『なべなべ』の要領で遊びます。囲い文字の所で回るととても速いので難易度アップです。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなごます
夢と希望もてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp

★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。